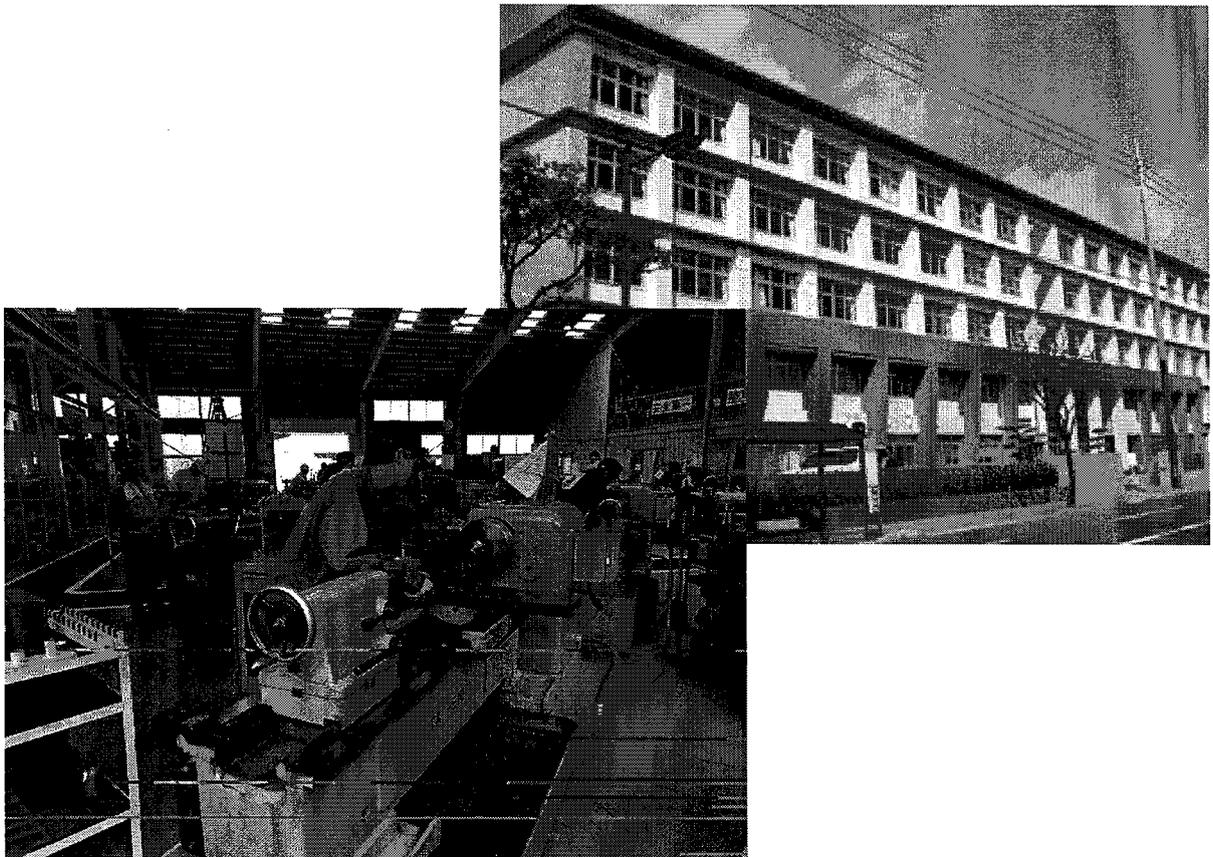


令和7年度
第1回
学校運営協議会



日時 令和7年6月24日(火)

山口県立小野田工業高等学校

令和7年度山口県立小野田工業高等学校第1回学校運営協議会

(任命書交付)

1 開会行事

(1) 校長挨拶

(2) 委員紹介

資料1

(3) 「学校運営協議会設置要綱について」

資料2

2 議事

(1) 会長及び副会長の選出

(2) 令和7年度学校運営方針

資料3

(3) 令和7年度学校運営協議会実施計画

資料4

(4) 令和7年度学校評価書

ア 全日制

別紙・資料5-1

イ 定時制

別紙・資料5-2

3 その他

【学校現況報告】

・ 全日制（教務部、進路指導部、生徒部、工業科）

資料6-1～4

・ 定時制

資料6-5

・ 本校教員の時間外在校等時間の現状

資料6-6

令和7年度学校運営協議会委員

氏名	所属・役職
栗野 裕樹	長州産業株式会社 総務課主任
穂本 真一	F Mスマイルウェーブ局長
岩村 誠	本校教育後援会 会長 宇部市議会議員
梅澤 真吾	日産化学株式会社小野田工場 総務課長
小野 雅弘	山陽小野田市立竜王中学校長
坂本 多門	かしわ同窓会 事務局長
佐々木 哲夫	本校定時制教育振興会 会長
生源寺まさみ	本校P T A副会長
竹田 佳枝	小野田小学校 地域学校協働活動推進委員
田坂 哲省	山陽小野田市教育委員会 学校教育課 主幹
福田 みのり	山陽小野田市立山口東京理科大学 共通教育センター 准教授
藤田 修	セントラル硝子株式会社宇部工場管理部 管理課企画総務グループ課長
森川 繁夫	山陽小野田市民生児童委員協議会 会長
森本 ひとみ	須恵小学校 地域学校協働活動推進委委員
矢原 光久	山口県立小野田工業高等学校 校長

(敬称略・五十音順)

小野田工業高等学校「学校運営協議会」設置要綱

山口県立小野田工業高等学校

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校運営協議会の運営に関する要綱第12条の規定により、本校の学校運営協議会（以下「協議会」という。）の運営について、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 協議会は次に掲げる事項を検討する。

- 一 経営計画に関する事項
- 二 組織編成に関する事項
- 三 予算の編成及び執行に関する事項
- 四 運営の状況についての評価に関する事項
- 五 前各号に掲げるもののほか、学校運営について協議会が必要と認める事項

(委員)

第3条 協議会は、次に掲げる委員により構成するものとし、本校校長が推薦し、山口県教育委員会が任命する。

- 一 当該指定学校の校長
 - 二 当該指定学校の教職員
 - 三 学識経験者
 - 四 関係機関の職員
 - 五 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が適当と認める者
- 2 委員は第2条に掲げる事項について、地域の実態を踏まえて、意見を述べその方策を検討する。
- 3 委員の任期は1年とし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選により選出する。ただし、本校の校長及び教職員は、会長及び副会長になることができない。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会)

第5条 協議会は、会長が本校校長と協議の上、招集する。

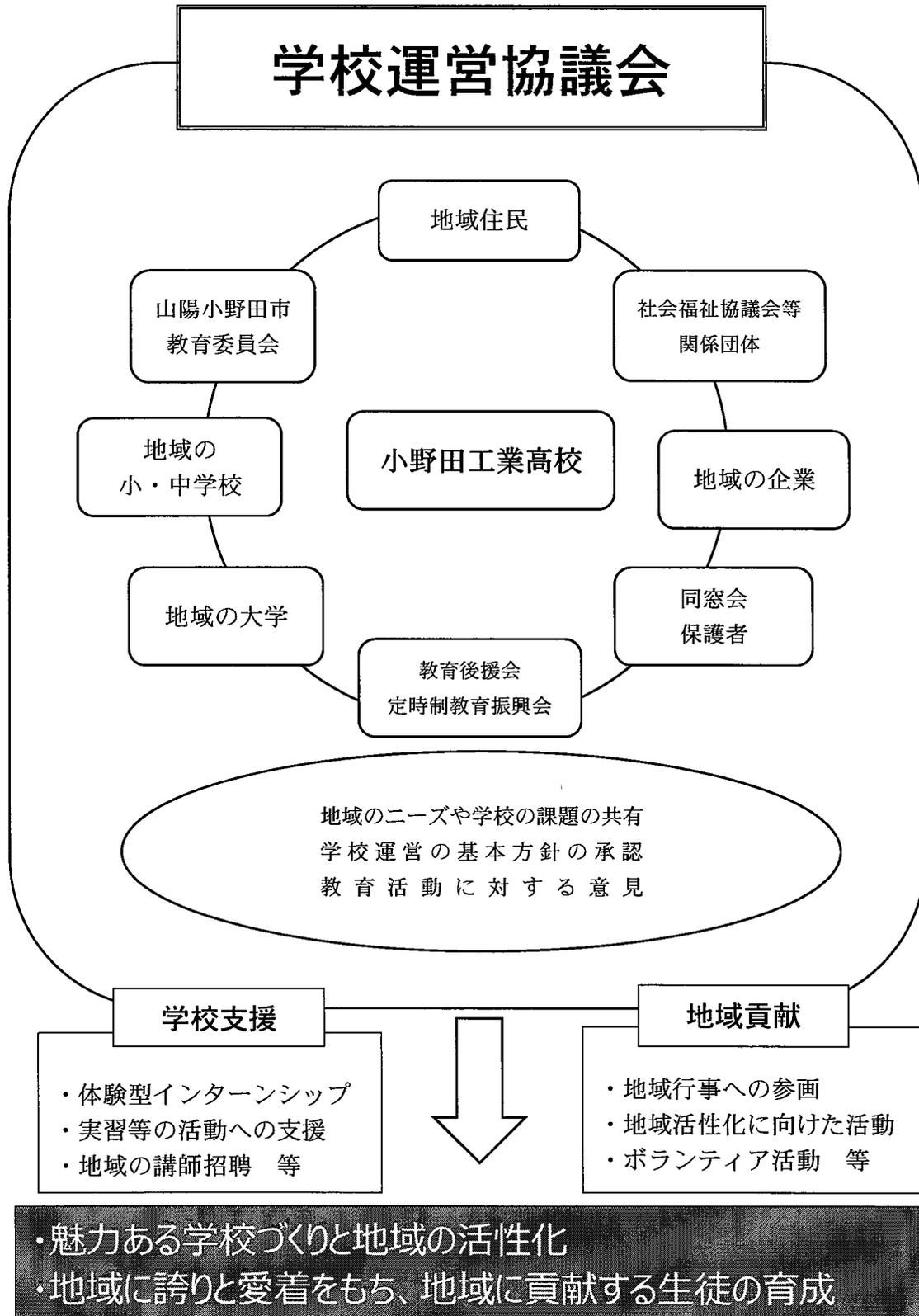
- 2 協議会の議長は、会長をもって充てる。
- 3 協議会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、本校において処理する。

附則 この要綱は、平成30年5月30日から施行する。

小野田工業高等学校のコミュニティ・スクール



令和7年度小工教育ビジョン

<校訓>



・ 勤労愛好
・ 報恩感謝
・ 自発自律

<教育目標>

- 1 広い教養と専門的な知識技術を身につけ、望ましい勤労観・職業観を養う。
- 2 感謝の気持ちを持ち、地域社会に貢献する心と態度を養う。
- 3 自ら思考し、判断し、主体的に責任ある行動のとれる能力、態度を養う。
- 4 強い使命感と倫理観を持ち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。

<学校経営の基本方針>

- ・ 生徒の自己実現と社会貢献を図る教育を推進する。
- ・ 本校の誇りと伝統を継承し、産業の変化や技術の進歩を踏まえ、本県工業教育をリードする学校をめざす。
- ・ 互いを尊重し、助け合い成長できる温かい職場環境をつくり、業務改善に努める。

<スクール・ミッション>

【全日制】 工業技術の進展への的確な対応をめざした実践的・体験的な教育活動や、地元企業等と連携・協働したものづくり、資格取得等に関する教育活動などを通して、高度な専門性や主体的に判断して行動できる力を持ち、地域・社会を支え、産業の持続的な発展を担う人材を育成する。

【定時制】 生徒の多様なニーズに応え、一人ひとりの可能性をのばすキャリア教育や、地域・社会や地元企業と連携・協働した工業に関する教育活動等を通して、主体的に学び、地域・社会の要請に応え、地域産業に貢献しようとする、自立して社会を生きていくことができる人材を育成する。

<スクール・ポリシー>

◎グラデュエーション・ポリシー

【全日制】

- 高い規範意識と正しい判断力を持ち、社会人として自発的・自律的に行動できる人物を育成します。
- 基礎学力を含めた広い教養と本校での学習を通じて身に付けた専門的な知識・技能を活かし、ものづくりを通じて地域社会・産業に貢献しようとする心と態度を備えた産業人材を育成します。
- 向上心を持ち、困難な課題の解決に向けて他者と協働しながら挑戦し続ける人材を育成します。

【定時制】

- 高い規範意識と正しい判断力を持ち、社会人として自発的・自律的に行動できる人物を育成します。
- 地域社会・産業に貢献しようとする心と態度を備えた人材を育成します。
- 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識・技術を身に付けるとともに、それらを活用する力を育成します。

◎カリキュラム・ポリシー

【全日制】

- 地域や社会に貢献する人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行います。
- 自分の夢や希望を持ち、自立して社会を生きていくことができる人材を育成するために、キャリア教育を充実します。
- 自ら考え行動する力を育成するために、体験的（実験・実習等）、探究的（課題研究等）な教育活動を重視します。
- キャリアアップ、スキルアップのために、資格取得や検定合格、身に付けた技能を競い合う競技大会出場に向けた指導・支援を充実します。

【定時制】

- 地域に貢献する人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行います。
- 自分の夢や希望を持ち、自立して社会を生きていくことができる人材を育成するために、キャリア教育を充実します。
- 学習内容の確実な定着を図るため、基礎・基本を重視した教科指導を行うとともに、学んだことを活用する力を育むため、実習・課題研究など自分自身で試行錯誤する教育活動を重視します。
- 自己肯定感向上に向け、特別活動や教育相談体制を充実します。

◎アドミッション・ポリシー

【全日制】

- 規則やマナーを守り、基本的な生活習慣が身に付いている生徒を募集します。
- ものづくりに興味を持ち、工業に関する学習に前向きに取り組み、技能の習得や資格の取得をめざそうとする生徒を募集します。
- 学習活動はもちろん、部活動、生徒会活動、学校行事等、学校生活に積極的に取り組む生徒を募集します。

【定時制】

- 学業と仕事などの社会活動を両立しながら、卒業しようとする意欲をもって努力する生徒を募集します。
- 規則やマナーを守り、基本的な生活習慣を大切にしている生徒を募集します。
- ものづくりに興味を持ち、工業に関する学習に前向きに取り組み、技能の習得や資格の取得をめざそうとする生徒を募集します。

<100周年までの活動スローガン>

ひとづくり&ものづくり100年へ向けて

今年創立99年目

～新たな百年の礎づくり～

<本年度の重点目標>

- 1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践
- 2 発達支持的・課題予防的生徒指導の推進と規律ある安心・安全な学校づくり
- 3 キャリア教育の充実と個に応じた丁寧な進路指導の徹底
- 4 探究活動の充実（地域と連携した教育活動・CSの仕組みの活用）
- 5 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信と校務の効率化

具体的な目標

【学習指導】

- ・基礎学力や技術の定着
- ・互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善
- ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践

【進路指導】

- ・資格取得の促進
- ・早い時期からの進路意識の醸成
- ・就職サポーター等と連携した積極的な情報収集
- ・生徒・保護者への確実な情報提供
- ・最後まで粘り強いサポートの実践

【チャレンジ目標】

☆進路実現100%

<全日制> ○ジュニアマイスターポイント1600点以上

<定時制> ○出席率95%以上

【生徒指導等】

- ・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上
- ・命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成（いじめ等人権侵害の根絶）
- ・交通法規の遵守とマナーの向上
- ・部活動や特別活動の活性化

【校務運営等】

- ・教員減に対応した持続可能な運営体制の見直し
- ・ICTを活用した校務の効率化
- ・迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化
- ・コミュニティスクール等地域、企業、異校種などの双方向の連携強化
- ・本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的発信

実施計画書（令和 7 年度）

山口県立小野田工業高等学校

1 具体的内容及び方法

(1) 学校運営協議会（年 3 回実施）

ア 第 1 回学校運営協議会（6 月 2 5 日（火））

- ・学校運営方針 ・年間計画・取組内容の承認
- ・取組に対する提言・意見交換

イ 第 2 回学校運営協議会（10 月実施予定）

- ・学校評価の中間報告
- ・取組実施状況の報告
- ・取組に対する提言・意見交換

ウ 第 3 回学校運営協議会（2 月実施予定）

- ・取組状況の評価
- ・来年度に向けた改善等の提言・意見交換

(2) 学校支援に関する取組

ア 大学・企業や地域の人材を活用した講演会

イ 山口東京理科大学と連携した授業・実習、企業等におけるインターンシップ

ウ 3 年生進路面接練習への保護者参加

エ 地域や保護者と連携した交通安全立哨

(3) 地域貢献に関する取組

ア 地域行事等におけるボランティアと本校の P R 活動

イ 学校周辺のクリーン作戦

ウ 小学校・中学校への出前授業

エ コミュニティ F M 出演（毎月第 4 火曜）

(4) やまぐち型社会連携教育について

2 実施計画及び実施日程

	実施計画	
	学校運営協議会	その他の取組
4 月		
5 月		P T A 総会 クリーン作戦 住吉まつり
6 月	第 1 回学校運営協議会	工場見学 進路説明会
7 月		
8 月		体験入学 親子科学教室
9 月		P T A 面接練習会
1 0 月	第 2 回学校運営協議会	
1 1 月		小工祭
1 2 月		インターンシップ
1 月		合格体験発表会 課題研究発表会 各科
2 月	第 3 回学校運営協議会	須恵ふるさとまつり
3 月		

学校現況報告

1 教務部の現況について

<本年度の重点目標>

- 生徒の学習環境・教職員の職場環境の整備
- 分掌業務の精選、定数減・異動に備えた円滑な引き継ぎ体制の確立
- HP を活用した積極的な情報発信

<現況報告>

1. 出欠席について 皆勤の状況

年度	1年	2年	3年	合計
R06 1年間	18人/89人 20.2%	35人/87人 40.2%	23人/85人 27.0%	76人/261人 29.1%
R07 5月まで	72人/84人 85.7%	67人/89人 75.2%	68人/87人 78.1%	207人/260人 79.6%

2. 学習について

定期考査・年5回実施。考査終了から10日程度で通知表配付。

- ・1・2学期中間考査終了後、担任との面談週間実施。（1学期は5/29～6/4）
- ・成績不振者には、次の考査の2週間前より指導・補習を実施。

※今年度 1学期中間考査 成績不振者指導30名（3年14名 2年11名 1年5名）

3. 昨年度の授業評価アンケートの結果について

- 【問1】 私は、授業内容に、興味・関心を持つことができたと思う。
- 【問2】 授業の進む速さはちょうど良いと思う。
- 【問3】 授業で扱う教材の内容や量は自分にとって適切であると思う。

- ① よく当てはまる
- ② 当てはまる
- ③ あまり当てはまらない
- ④ 当てはまらない

1年生全体

(機械科1年、電子情報科1年、化学工業科1年)

問1 私は授業内容に興味・関心を持つことができたと思う。

	①	②	③	④
講義	43.3%	51.3%	4.0%	1.4%
実習	45.4%	49.0%	4.8%	0.8%
全体	43.8%	50.8%	4.2%	1.3%

問2 授業の進む速さはちょうど良いと思う。

	①	②	③	④
講義	39.5%	52.2%	6.0%	2.3%
実習	47.2%	49.7%	1.7%	1.4%
全体	41.5%	51.6%	4.9%	2.1%

問3 授業で扱う教材の内容や量は自分にとって適切であると思う。

	①	②	③	④
講義	37.5%	55.0%	5.5%	2.0%
実習	45.5%	46.9%	4.8%	2.8%
全体	39.5%	53.0%	5.3%	2.2%

2年生全体

(機械科2年、電子情報科2年、化学工業科2年)

問1 私は授業内容に興味・関心を持つことができたと思う。

	①	②	③	④
講義	47.4%	47.8%	4.6%	0.2%
実習	53.0%	41.5%	5.1%	0.4%
全体	48.6%	46.4%	4.7%	0.3%

問2 授業の進む速さはちょうど良いと思う。

	①	②	③	④
講義	50.7%	42.8%	5.7%	0.9%
実習	53.0%	37.9%	7.5%	1.6%
全体	51.2%	41.7%	6.1%	1.0%

問3 授業で扱う教材の内容や量は自分にとって適切であると思う。

	①	②	③	④
講義	49.4%	46.3%	3.9%	0.4%
実習	51.8%	41.0%	5.2%	2.0%
全体	49.9%	45.1%	4.2%	0.8%

3年生全体

(機械科3年、電子情報科3年、化学工業科3年)

問1 私は授業内容に興味・関心を持つことができたと思う。

	①	②	③	④
講義	57.7%	35.5%	5.7%	1.0%
実習	65.2%	32.0%	2.8%	0.0%
全体	59.6%	34.6%	5.0%	0.8%

問2 授業の進む速さはちょうど良いと思う。

	①	②	③	④
講義	57.7%	32.9%	6.4%	3.0%
実習	65.5%	32.9%	1.2%	0.4%
全体	59.6%	32.9%	5.1%	2.4%

問3 授業で扱う教材の内容や量は自分にとって適切であると思う。

	①	②	③	④
講義	56.6%	37.1%	4.7%	1.6%
実習	63.9%	34.1%	1.6%	0.4%
全体	58.5%	36.3%	3.9%	1.3%

進路指導部より

1 過去 5 年間の進路状況 (人数)

進路先および地域		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
就職	山陽小野田・美祢	26	19	16	13	14
	宇部・下関・山口	45	33	37	35	29
	その他県内	11	7	13	9	8
	県外企業	12	14	20	16	26
進学	四大・短大・高専	4	6	9	6	5
	各種学校	4	11	10	5	3
合 計		102	90	105	84	85

2 過去 5 年間の求人数の推移 (人数)

地 域	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
県内企業	381	392	397	615	635
県外企業	277	213	771	1279	1401
合 計	658	605	1168	1894	2036

3 進路指導に関する取組および就職試験の結果

(1) 企業訪問および担当者との面談 (電話訪問含む)

県内は企業訪問および就職促進協議会による情報交換を中心に、県外は電話訪問を中心に実施している。

(2) 応募前職場見学

昨年度と同様に応募前職場見学を夏季休業中を利用して実施する。教員の引率については、県外と県内での遠方となる企業については生徒のみでの参加とする方向。

(3) 一次募集の合格率

令和 4 年度… 96.5% (85 / 88 名)

令和 5 年度… 97.2% (70 / 72 名)

令和 6 年度… 97.4% (74 / 76 名)

4 P T A 関連の行事

〈校内〉 評議員会、総会、P T A 面接練習会、小工祭、学校保健委員会、交通立哨

〈校外〉 高 P 連 (長南地区、県、中四国、全国)、指導者研修、キャリア教育

→本年度は積極的に実施 (参加) で検討中

5 令和 7 年 3 月卒業生の進路状況一覧 (次頁)

進路指導部より

令和7年全日制卒業生（85名）の進路先一覧（内定・合格数順）

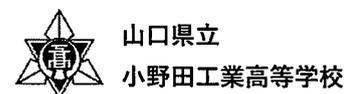
2025/7/9 時点

県内企業就職 51名	内定人数
山口県内	
UBEマシナリー 株式会社	3
テルモ山口 株式会社	3
日本化薬 株式会社 厚狭工場	2
株式会社 神戸製鋼所 長府製造所	2
三菱重工業 株式会社 下関造船所	2
宇部マテリアルズ 株式会社	2
NGKエレクトロデバイス 株式会社	2
株式会社ブリヂストン 下関工場	2
THK 株式会社 山口工場	2
長州産業 株式会社	2
東ソー 株式会社 南陽事業所	2
ジャパンバイル 株式会社 山口工場	1
協和キリン 株式会社 宇部工場	1
UBE株式会社	1
セントラル硝子 株式会社 宇部工場	1
丸ーステンレス鋼管 株式会社	1
不二輸送機工業 株式会社	1
株式会社 NFエンジニアリング	1
天馬 株式会社 山口工場	1
三井化学 株式会社 岩国大竹工場	1
ENEOS株式会社 麻里布製油所	1
UBE三菱セメント株式会社宇部セメント工場	1
出光興産株式会社 徳山事業所	1
株式会社 日立製作所 笠戸事業所	1
テクノUMG 株式会社 宇部事業所	1
株式会社コベルコ科研	1
株式会社 モルテンアスコ	1
共英製鋼 株式会社 山口事業所	1
株式会社 ティーユーエレクトロニクス	1
日産化学 株式会社 小野田工場	1
萩森興産 株式会社	1
UDTトラックス 株式会社	1
山九 株式会社 周南支店	1
コマツカスタマーサポート株式会社 中国カンパニー	1
厚和産業 株式会社	1
新虎興産株式会社	1
株式会社 ヤマダデンキ	1
自己就職	1

県外企業就職 26名	内定人数
中国・四国地区（4名）	
中国電力ネットワーク株式会社	1
中国電力 株式会社	1
西日本旅客鉄道 株式会社	1
JFEスチール 株式会社 西日本製鉄所	1
九州地区（10名）	
日鉄テックスエンジ株式会社 八幡支店	2
東京製鐵 株式会社 九州工場	2
トヨタ自動車九州 株式会社	1
大阪シーリング印刷 株式会社	1
豊田合成九州 株式会社 (トヨタグループ)	1
沢井製薬 株式会社 九州工場	1
日産自動車九州 株式会社	1
株式会社 JR西日本新幹線テクノス	1
関西地区（4名）	
株式会社 カネカ	1
川崎重工業 株式会社	1
京セラ 株式会社 京都綾部工場	1
東洋製罐株式会社 茨木工場	1
東海地区（5名）	
トヨタ車体 株式会社	2
愛知製鋼 株式会社 (AICHI STEEL)	1
株式会社 豊田自動織機	1
トヨタ自動車 株式会社	1
関東地区（3名）	
株式会社 荏原電産 藤沢事業所	1
日本冶金工業株式会社 川崎製造所	1
日産化学株式会社 袖ヶ浦工場	1
進学 8名	
山陽小野田市立山口東京理科大学理科大学 工学部・数理情報科学科	1
山陽小野田市立山口東京理科大学理科大学 工学部・応用化学科	1
山陽小野田市立山口東京理科大学理科大学 工学部・医薬工学科	1
山陽小野田市立山口東京理科大学理科大学 工学部・電気工学科	1
山陽小野田市立山口東京理科大学理科大学 工学部・機械工学科	1
福岡リゾート&スポーツ専門学校 スポーツITトレーナー科	1
パンタングームアカデミー福岡校 ゲーム学部 キャラクターデザイナー専攻	1
北九州自動車大学校 一級自動車整備科	1



進路ガイダンス（6月、10月）
インターンシップ（2年生12月）



令和 7 年度 生徒部の状況について

本校のねらい

社会人になる準備期間 「挨拶・礼法」「社会的規範やマナー」等を身に付ける

1 令和 6 年度の報告

(1) 懲戒事案について

- ・懲戒処分 3 件 (停学 3)

(2) 交通事故について

- ・車との出会い頭 6 件程度

(3) いじめについて

- ・いじり、からかい認知件数 0 件
- ・いじめ重大事案件数 0 件

3

(4) その他

- ・不登校 2 件 → 進路変更
- ・携帯電話使用規定違反での預かり件数 33 件
- ・SNS での不適切な投稿などは認知不能

2 令和 7 年度 6 月現在

(1) 懲戒事案について

- ・ 0 件

(2) 交通事故について

- ・ 2 件 (重傷事故、ひき逃げ)

(3) いじめについて

- ・重大事案件数 0 件

(4) その他

- ・規範意識が低い、我慢強い生徒が増えている傾向。
携帯電話使用・交通マナーへの規範意識が低い。(特に 1 年生)
- ・言われたこと・決まりごとはきちんと行うことができる一方、対応力にかけている生徒が増えてきた。
- ・ヘルメットの着用率はほぼ 100%。
- ・交通関係の苦情は減った。
- ・部活動での活性化が競技成績に反映された。(卓球部、陸上部の中国大会出場)

定時制の取組について

◎本年度のチャレンジ目標

進路実現 100% 全校生徒で年間 95% 以上の出席率

1 本校定時制の現状

(1) 生徒数 (令和 7 年 5 月 1 日現在)

1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	合計
12 人	11 人	7 人	3 人	33 人 (昨年度より 11 人増)

(2) 進路先 (令和 7 年 3 月卒業)

卒業生 2 名 (4 年生 1 名、3 修制 3 年生 1 名)

就 職	明石被服興業 (株) 宇部工場	1 名
	中国技建 (株)	1 名

(3) 定時制の特色

- ① 二学期制の導入 (前期と後期)
- ② 三年修業制コースの設置 (本校定時制の授業のみで 3 年での卒業が可能)
- ③ 生徒と社会人が一緒に受講する公開授業の実施
- ④ デュアルシステムの導入 (事業所と学校が共同で実施する学習プログラム)
- ⑤ ロボット競技大会や溶接競技大会への参加

2 学習指導

学習習慣の確立と基礎的な学力の定着、基本的な技能の習得

(1) 基礎学力の定着

考查毎に目標設定を行い、日々の学習に取り組む。考查後、生徒自身が振り返り行う。この振り返りを各教科で必要に応じて、寄り添いながら支援することで基礎学力の確実な定着に取り組む。

(2) 高い出席率の維持 令和 6 年度 93% (R5 86%、R4 91%、R3 94%、R2 94%)

学校生活とアルバイトの両立を促し、学校に登校して学習することで学習習慣の確立をめざす。

(3) わかりやすい授業づくり

生徒の授業評価による授業改善

外部への授業公開、教員相互による参観により授業改善に取り組む。

(4) 資格取得の充実

「生徒一人あたり年間一つ以上の資格取得」を目指し、生徒一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな指導に取り組む。

3 生徒指導

基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成

- (1) 生徒情報と最新知見の共有
生徒情報交換会の定期的な実施による情報交換と指導方針の共通理解を図る。
- (2) 登下校時の見守りによる生徒指導の充実
校門や教室前で登下校の様子を見守り、教員から積極的に挨拶や言葉掛けを行う。
- (3) 頭髪・服装指導の徹底
TPOに応じた服装・礼法指導に移行した。
- (4) 交通法規の遵守とマナーの向上
登校時の見守り指導の中で、日々注意喚起を行う。
※R5年度より、自動車、自動2輪の通学を認めました。

4 進路指導

望ましい勤労観・職業観の育成と希望進路の実現

- ・就職希望者は正社員としての就職をめざす
 - ・進路先未決定者への指導を粘り強く実施
→ 16年連続（H21～R6）進路決定率100%
- (1) キャリア教育及び進路実現に向けた意識、態度の醸成
進路学習やキャリアカウンセリング（進路情報提供）、デュアル研修（体験的学習）の一層の充実を図る。
 - (2) 生徒個々の能力、適性に応じたミスマッチのない進路選択指導の充実
卒業学年を対象とした進路説明会の充実を図り、自ら考えて行動できるように指導する。応募前職場見学、オープンキャンパス等への積極的な参加を促す。
 - (3) 選考試験における事前指導・事後指導の充実
直前の面接練習に重点的に取り組み、就職問題集などを授業や放課後、長期休業等で効果的に活用する。

5 その他

- (1) 活力ある学校づくり
小工祭や定時制通信制体育大会、生活体験発表会などの学校行事や生徒会活動を通じて生徒の自主性を育てる。
- (2) 自主的・実践的な態度の育成
地域のボランティア活動や体育的・文化的行事等へ積極的に参加し、充実した学校生活、良好な人間関係を構築する。
- (3) 開かれた学校づくり
中学校訪問、本校の授業公開、広報紙やホームページの活用、地域の伝統産業の理解学習、工場見学などを実施し、学校、家庭、地域との連携を強化する。

【全日制】

令和 6 年度 (34 名)

	月平均	45 時間超人数	80 時間超人数	100 時間超人数
4 月	52.8 時間	17 人	8 人	3 人
5 月	54.6 時間	17 人	10 人	6 人
6 月	47.0 時間	17 人	7 人	2 人
7 月	39.4 時間	12 人	3 人	2 人
8 月	31.5 時間	9 人	5 人	1 人
9 月	47.7 時間	13 人	9 人	5 人
10 月	43.9 時間	14 人	6 人	2 人
11 月	35.1 時間	10 人	4 人	0 人
12 月	38.4 時間	12 人	3 人	2 人
1 月	36.0 時間	11 人	3 人	1 人
2 月	30.7 時間	11 人	1 人	0 人
3 月	33.6 時間	9 人	4 人	2 人
年間平均	36.9 時間			

令和 7 年度 (34 名)

	月平均	45 時間超人数	80 時間超人数	100 時間超人数
4 月	49.9 時間	8 人	5 人	2 人
5 月	44.4 時間	5 人	4 人	1 人

【定時制】

令和 6 年度 (8 名)

	月平均	45 時間超人数	80 時間超人数	100 時間超人数
4 月	13.8 時間	0 人	0 人	0 人
5 月	9.9 時間	0 人	0 人	0 人
6 月	10.6 時間	0 人	0 人	0 人
7 月	11.1 時間	0 人	0 人	0 人
8 月	17.1 時間	1 人	0 人	0 人
9 月	9.9 時間	0 人	0 人	0 人
10 月	13.3 時間	0 人	0 人	0 人
11 月	6.6 時間	0 人	0 人	0 人
12 月	7.9 時間	0 人	0 人	0 人
1 月	13.8 時間	1 人	0 人	0 人
2 月	9.2 時間	0 人	0 人	0 人
3 月	15.9 時間	1 人	0 人	0 人
年間平均	14.3 時間			

令和 7 年度 (9 名)

	月平均	45 時間超人数	80 時間超人数	100 時間超人数
4 月	8.7 時間	0 人	0 人	0 人
5 月	5.0 時間	0 人	0 人	0 人

令和7年度 山口県立小野田工業高等学校全日制 学校評価書 校長(矢原 光久)

1 スクール・ミッション、学校教育目標
工業技術の進展への的確な対応をめざした実践的・体験的な教育活動や、地元企業等と連携・協働したものづくり、資格取得等に関する教育活動などを通して、高度な専門性や主体的に判断して行動できる力をもち、地域・社会を支え、産業の持続的な発展を担う人材を育成します。

Table with 2 columns: Policy Area (e.g., Graduation Policy, Curriculum Policy) and Description of the policy.

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
【教務】授業アンケートの計画的な実施に加え、基本研修(初任者研修・中堅教員研修等)の機会を活用しながら、校内研修や授業研究を活性化し、ICTの活用など、授業力向上に向けた取組を推進する。

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践と公務の効率化
2 発達支持的・課題予防的生徒指導の推進と規律ある安心・安全な学校づくり

本年度のチャレンジ目標
①進路実現100%
②ジュニアマイスター全校生徒の獲得得点 1600点以上

Main evaluation table with columns: Evaluation Area, Key Objectives, Specific Measures, Evaluation Standards, Achievement Status, and School/Parent/Student Comments.

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
進路指導	学校、家庭、地域間の緊密な連携をベースにしたキャリア教育の活性化と個々の進路希望の実現	・進路希望調査や個人面談等の充実により、学校全体で生徒の進路希望を支援し、その実現を図る。	4: 生徒の95%以上が一次募集試験で進路を決定した。 3: 生徒の90%以上が一次募集試験で進路を決定した。 2: 生徒の85%以上が一次募集試験で進路を決定した。 1: 生徒の85%未満しか一次募集試験で進路を決定できなかった。				
		・生徒の進路希望に資する企業訪問の実施と就職サポートとの綿密な情報交換を推進することで、学校のニーズに即した求人数の確保と求人内容の充実をめざす。	4: 270人以上の求人を確保することができた。 3: 200人以上の求人を確保することができた。 2: 135人以上の求人を確保することができた。 1: 135人未満の求人数しか確保できなかった。				
		・「進路のしおり」、「面接試験突破＆履歴書作成マニュアル」の発行、ホームページの更新など、生徒・保護者への積極的かつ丁寧で確実な情報提供をめざす。	4: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が90%以上であった。 3: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が80%以上であった。 2: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%以上であった。 1: アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%未満であった。				
工業	資格取得に向けた指導の充実	・各科において資格取得に向けて積極的に働き掛け、ジュニアマイスターポイント年間1600点を目標とする。	4: ジュニアマイスターポイント1600点を達成した。 3: ジュニアマイスターポイント1400点以上であった。 2: ジュニアマイスターポイント1200点以上であった。 1: ジュニアマイスターポイント1200点未満であった。				
	地域と連携したものづくりの推進	・企業や大学等から講師を招き、先進的知識・技術にふれ、ものづくりの技術・技能の向上を目指す	4: 学校生活についてのアンケート(生徒)で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が95%以上であった。 3: 学校生活についてのアンケート(生徒)で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が90%以上であった。 2: 学校生活についてのアンケート(生徒)で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が85%以上であった。 1: 学校生活についてのアンケート(生徒)で「専門科目・実習の授業において興味・関心をもち取り組んでいる。」が85%未満であった。				
業務改善	学校の組織等 校内組織および業務の見直しと改善	・各分掌、教科等で協議する機会を設けることにより、業務の見直しを行うとともに、教職員間の情報共有や共通理解を図り連携を強化する。	アンケートの回答で、本校教員の勤務環境に対する満足度が 4: 80%以上であった。 3: 70%以上であった。 2: 60%以上であった。 1: 60%未満であった。				
	教職員の健康管理	・教職員の健康管理に向け、定期健診における要精密検査対象者の精密検査受診率100%をめざす。	定期健診における要精密検査対象者の精密検査受診率が 4: 100%であった。 3: 80%以上であった。 2: 60%以上であった。 1: 60%未満であった。				
	勤務状況	・年休・代休等の休暇が取得しやすい職場環境づくりに努める。	4: 年休の平均取得日数が13日を超えた。 3: 年休の平均取得日数が10日を超えた。 2: 年休の平均取得日数は10日を下回った。 1: 年休の平均取得日数も5日を下回った。				
	働き方改革の推進	・教員の時間外在在等時間の平均を45時間以下とする。	4: 令和7年度の時間外在在等時間の平均が45時間以下 3: 令和7年度の時間外在在等時間が50時間以下 2: 令和7年度の時間外在在等時間が55時間以下 1: 令和7年度の時間外在在等時間が55時間超				
	近隣の小中学生に対する教育活動の周知	・親子科学教室、出前授業において、工業の魅力の小中学生や近隣の方に伝える。	4: 4回以上の行事に参加した。 3: 3回の行事に参加した。 2: 2回の行事に参加した。 1: 1回の行事に参加した。				
地域連携	学校と家庭、地域社会や地域の大学との連携強化に努める。	・地域の伝統産業を理解し、工場見学やインターンシップにより、地域と連携した学習に取り組む。また、地域の大学と連携し、高度な知識に触れる取り組みをする。	4: 地域と連携した行事に4回以上参加した。 3: 地域と連携した行事に3回参加した。 2: 地域と連携した行事に2回参加した。 1: 地域と連携した行事に1回参加した。				

7 学校評価総括(取組の成果と課題)

8 次年度への改善策

令和7年度 山口県立小野田工業高等学校定時制 学校評価書 校長(矢原 光久)

1 スクール・ミッション、学校教育目標
 生徒の多様なニーズに応え、一人ひとりの可能性をのばすキャリア教育や、地域・社会や地元企業と連携・協働した工業に関する教育活動等を通して、主体的に学び、地域・社会の要請に応え、地域産業に貢献しようとする、自立して社会を生きていくことができる人材を育成します。

2 スクール・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー (育成をめざす資質・能力に関する方針)</p>	<p>○高い規範意識と正しい判断力を持ち、社会人として自発的・自律的に行動できる人物を育成します。 ○地域社会・産業に貢献しようとする心と態度を備えた人材を育成します。 ○基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識・技術を身に付けるとともに、それらを活用する力を育成します。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>○地域に貢献する人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行います。 ○自分の夢や希望をもち、自立して社会を生きていくことのできる人材を育成するために、キャリア教育を充実します。 ○学習内容の確実な定着を図るため、基礎・基本を重視した教科指導を行うとともに、学んだことを活用する力を育むため、実習・課題研究など自分自身で試行錯誤する教育活動を重視します。 ○自己肯定感向上に向け、特別活動や教育相談体制を充実します。</p>
<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>○学業と仕事などの社会活動を両立しながら、卒業しようとする意欲をもって努力する生徒を募集します。 ○規則やマナーを守り、基本的な生活習慣を大切にしている生徒を募集します。 ○ものづくりに興味をもち、工業に関する学習に前向きに取り組み、技能の習得や資格の取得をめざそうとする生徒を募集します。</p>

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

①学習指導… 昨年度の授業アンケートでは「授業をすすめる速さは丁度良い」「先生はわかりやすい説明をこころがけ、指導している」の項目について、100%の生徒が「そう思う」と回答した。本年度もPDCAサイクルを活用し、生徒の実態に即した丁寧でわかりやすい授業を継続する。また、基礎学力の向上をはかり、出席率の向上を目指す。
 ②生徒指導… 生徒の約半数が出席率95%を超えており、全体としては良好な傾向が見られた。一方で、特定の生徒に欠席や遅刻が目立つ状況もあるため、今後も生徒一人ひとりに応じた、きめ細やかな指導を継続していく。また、校則の遵守や時間を守る意識の向上にも引き続き取り組む。昨年度は登下校中の交通事故の発生はなかったが、今後も交通安全や交通ルールの遵守に対する意識を高めていく。
 ③進路指導… 16年連続で進路実現率100%を達成しており、本年度も引き続き、全生徒の進路実現100%を目指して取り組む。また、1・2年生については、将来の進路選択が円滑に行えるよう、生徒一人ひとりの希望や状況に応じた、きめ細やかな指導を継続的に実施していく。
 ④特別活動… 昨年度の行事における全体の参加率は90.4%でした。今後は、積極的な声かけや行事内容の工夫を通じて、さらなる参加率の向上を図っていききたい。また、これまで大切にしてきた行事の意義を継承しつつ、生徒が主体的に企画・運営に関わる機会を増やすことで、自主性の育成にもつなげていきたい。
 ⑤工業科… 昨年度は危険物兩種に2名が合格した。今後も資格、検定試験の学習やICT機器の活用拡大等、工業全般の知識や技術指導を充実させたい。就職に向けた技術の習得と、基礎学力の補充と定着を目指したい。
 ⑥業務改善… 昨年度は業務改善と校務分掌の見直し等について取り組み、89%の教員が業務改善を進めていると答えた。本年度も引き続き、業務改善と校務分掌の見直しに取り組んでいく。
 ⑦地域連携… 昨年度は、ホームページを活用して地域への情報発信を行うとともに、地域の伝統産業に関する学習や、地元企業での実習を実施した。本年度も、こうした地域に根ざした学習や実習を継続し、生徒の地域理解と実践的な学びをさらに深めていきたい。
 ⑧ICTの活用… ほとんどの教員がICT機器を効果的に活用できるようになってきたタブレット端末をICT機器の積極的な活用を推進し、指導力向上に努める。

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践と公務の効率化 2 規律ある安心・安全な学校づくりと組織的な危機管理 3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導 4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力を積極的に発信 5 探究活動の充実(地域と連携した教育活動・CSの仕組みの活用)
 (1)[学習指導]・基礎学力や技術の定着・互見授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善・主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践
 (2)[生徒指導等]・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上・命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成・交通法規の遵守とマナーの向上・部活動や特別活動の活性化
 (3)[進路指導]・資格取得の促進・早い時期からの進路意識の醸成・就職サポーター等と連携した積極的な情報収集・生徒・保護者への確実な情報提供・最後まで粘り強いサポートの実践
 (4)[校務運営等]・教員減に対応した持続可能な運営体制の見直し・ICTを活用した校務の効率化・迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化・コミュニティスクール等地域、企業、異職種などとの双方向の連携強化・本校の特徴的な活動やものづくりの魅力を積極的に情報発信
 ◎本年度のチャレンジ目標 ①進路実現100% ②全校生徒で年間95%以上の出席率

5 自己評価						6 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	基礎学力の向上と学習習慣の確立	不登校生徒が多い実態から、義務教育段階の学習と現在の学習を関連づけて、基礎学力を補充する。また、学期に1回授業評価を実施し、評価結果の分析に基づき授業改善を行い、生徒の基礎学力の向上を図る。	学校評価アンケートの授業の内容が「よく分かる」、「分かる」が合わせて 4: 90%以上 3: 85%以上 2: 75%以上 1: 75%未満				
		学習習慣を確立させるため、高い出席率の維持に努める。欠席の多い生徒に関しては個別指導や、課題提出を課して、学習の空白を生じない対策をする。	出席率が95%を超える生徒が 4: 60%以上 3: 50%以上 2: 40%以上 1: 40%未満				
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	社会人としての礼法ができるようになる。	登下校時や授業時に挨拶や礼ができる生徒の割合が 4: 60%以上 3: 50%以上 2: 40%以上 1: 40%未満				
		時間厳守の意識をもたせ、実践できるようにする。	授業開始時間に授業の準備ができている生徒が 4: 60%以上 3: 50%以上 2: 40%以上 1: 40%未満				
進路指導	いじめや問題行動等の未然防止	生徒一人ひとりの変化に気を配り、いじめや問題行動の早期発見、未然防止に努めるために、アンケートや個人面談を積極的に行う。	アンケートや個人面談を 4: 年間6回以上実施した。 3: 年間4回以上実施した。 2: 年間2回以上実施した。 1: あまり実施できなかった。				
		交通安全指導を	交通安全指導を 4: 1か月に2回程度実施した。 3: 1か月に1回程度実施した。 2: 2か月に1回程度実施した。 1: あまり実施できなかった。				
進路指導	生徒一人ひとりの進路について関心を高め、勤労観・職業観の育成を図り、ミスマッチのない進路選択の実現	LHRや各種行事での進路学習、個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高揚させ、早期に具体的な進路目標を持たせる。	全学年の生徒において進路希望「未定」が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 40%未満 1: 40%以上				
		卒業学年生徒一人ひとりの希望に添った進路が実現できるよう支援する。	卒業学年生徒において 4: 全員の進路が12月末までに決定 3: 全員の進路が2月末までに決定 2: 全員の進路が3月末までに決定 1: 3月末までに進路先を決定できない者がいた				

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
特別活動	学校行事や生徒会活動を通じた活力ある学校づくり	学校行事を通して、生徒の自主性を育成する。また人間性を豊かにする様々な取組から、生徒の発達を促進させる。	4: 95%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が活発に行われた。 3: 90%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 2: 85%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 1: 参加した生徒は85%に満たず、取組は停滞していた。				
工業	産業人として必要な技能・技術の習得	資格試験、検定試験の実施や外部人材活用により、生徒に基礎的な技能・技術を身に付けさせる。	資格・検定試験や外部人材の活用を 4: 年間6回以上実施した。 3: 年間4回以上実施した。 2: 年間3回以上実施した。 1: 年間3回未満の実施であった。				
業務改善	業務改善と勤務体制の改善による業務の効率化	各分掌において定期的に会議を実施し、業務改善及び業務の効率化を図る。	学校評価アンケートの業務の精選や効率化を行った割合が 4: 9割以上 3: 7割以上 2: 5割以上 1: 5割未満				
	時間外業務時間の削減	定時退勤を呼びかけ意識改革を図る。また、必要に応じて日々の適切な業務の配分を行い、勤務時間内に全員が退勤できるように配慮する。	時間外業務の一月当たりの平均時間が 4: 15時間以下 3: 20時間以下 2: 25時間以下 1: 25時間超				
地域連携	地域に対する教育活動の周知	各種行事を広報・公開し、地元紙・広報誌等の連携及びホームページにより積極的に地域へ発信する。	広報等各種掲載回数及びHPの更新合計が 4: 12回以上 3: 10回以上 2: 8回以上 1: 8回未満				
	学校と家庭、地域社会との連携の強化	デュアル実践、地域の伝統産業の学習、工場見学、清掃活動等、地域と連携した教育活動に取り組む。	目的を理解し、「意欲的に取り組めた」と答えた生徒が 4: 85%以上 3: 75%以上 2: 65%以上 1: 65%未満				
ICTの活用	ICT機器の積極的活用による、指導能力の向上	全教員がICT機器(一人1台パソコン、電子黒板、アプリケーション等)を積極的に活用して授業力の向上と業務の効率化に取り組む。	ICT機器やアプリケーションを活用した授業や分掌業務等が「できた」と答えた教員が 4: 90%以上 3: 80%以上 2: 60%以上 1: 60%未満				

7 学校評価総括(取組の成果と課題)

--

8 次年度への改善策

--